

ネパール人日本語学習者の日本語音声の習得の特徴

—ネパール語に着目して—

引田 梨菜

要旨

本研究は、日本国内、ネパール国内問わず増加を続けているネパール出身の日本語学習者（以下、ネパール人日本語学習者）を対象に、ネパール人日本語学習者がどのような学習者で、どのような日本語の音声習得の特徴を持っているのか、ネパール語に着目して明らかにすることを目的としたものである。なお、本研究のネパールにおける調査では、2018年3月、8月～9月にネパールにおいて、直接現地調査を行った。また、ネパール語については、2019年東京外国語大学オープンアカデミーで学習したほか、野津先生についてネパール語の学習および研究を続けている。

先行研究では、ネパール人日本語学習者の来日後の日本語学校の様子等の事例研究が多い。その中では、ネパール人日本語学習者は騙されて来日し、学習意欲が低い学生が多いと述べられているが、手厚いサポートをしていく中で学校や教師に対する満足度が高くなり、学習動機が高くなった学校も見られた。しかし、ネパール人日本語学習者がなぜ留学先に日本を選択したのか、ネパールでどのような教育を受けてきたのか、日本語をどのように習得しているのか等については述べられていない。

そこで、まず、ネパールではどのような教育を受けてきたのか、ネパール人日本語学習者がなぜ留学先に日本を選択したのかについて明らかにした。明らかになった点は3つの観点でまとめた。(1) 学歴、(2) 英語の能力、(3) 金銭面である。その一方で、日本とネパールとの慣習が大きく異なることから、ネパール人日本語学習者が来日後に理解する必要があるものとして、試験の方法と成績の付け方があることがわかった。

次に、日本語を学習する教材についてである。現在、ネパール人を対象にした教材はほとんどない。ネパール人日本語学習者が学習する環境としてこのままでよいのか、聞き取り調査を行った結果、現状では学習に苦勞している一方で、ネパール語訳があればよいわけではないこともわかった。ネパールの教育現場ではネパール語と英語が使用されている。そのため、どちらの言語も普段使わない言葉や書き言葉といった難しい言葉は理解しづらいという意見が挙がっており、教材には英語とネパール語の併記が求められることが明らか

かになった。ネパール国内で発行されている教材は日本語との 3 言語併記となっており、日本国内での教材にもそれが求められる。ここまででネパール人日本語学習者がどのような学習者であるか明らかにした。

そのネパール人日本語学習者がどのように日本語を習得していくのか、まずネパール語と日本語との関係性から探った。

日本語の学習はかなを学ぶところからスタートするが、ネパール人日本語学習者にとって日本語の学習のしやすさはそこにあった。日本語の五十音図の配列とネパール語のデーヴァナーガリー文字の配列はどちらもサンスクリット語の配列に則ったものであるため、ほぼ同じ配列となっている。日本語の文字は新たに覚える必要があるが、文字が持つ音韻はネパール語を利用できるため、ネパール人日本語学習者の心理的ハードルも下がり、学習が始めやすいと考えられる。

さらに、日本語の音声の習得について見ていくために、長音・促音・拗音に着目して知覚実験と生成実験を行った。加えて、ネパール人日本語学習者の特徴を明らかにするために、同様の調査を中国語の共通語を母語とする日本語学習者（以下、中国人日本語学習者とする）を対象に行い比較した。

その結果、ネパール人日本語学習者について知覚実験で明らかになったことは以下の通りである。

(1) 着目する点ごとには以下のようにいえる。

- ・長音：あまり得意ではないが、その分能力の向上も見られる。
- ・促音：苦手ではない。
- ・拗音：刺激語によって知覚の結果に差が出やすい。

(2) ネパール人日本語学習者特有のストラテジーが見られた。

知覚した際に自身の理解語彙ではなかった場合に自身が持っている他の理解語彙に置き換えて認識していると解答の分析から推察される。

次に、知覚実験と生成実験の解答を比較すると以下のことがわかる。

(3) 長音は知覚よりも生成の方が苦手である。

ネパール語の文字表記において母音の長短の区別があるネパール語を母語もしくは共通語として持っていて日本語の母音の長短を弁別し、違いをつけて発音することができない。

(4) 日本語の習得にはネパール語の正の干渉を受けている現象も負の干渉を受けてい

る現象も見られる

先行研究では、ネパール人日本語学習者は会話の能力が非常に高くなる者がいると述べられていたが、以上のように日本語を学習する上で、特に「話す」・「聞く」に関してネパール語が応用されていることが明らかになった。今後ネパール人日本語学習者のさらなる増加が見込まれている以上、研究もさらに進めていく必要がある。